

# 米田柔整専門学校 同窓会誌 縮刷版

米田柔整専門学校同窓会  
〒451-0053  
名古屋市西区枇杷島二丁目3番13号  
米田柔整専門学校内

## 令和二年の主な出来事

柔道報告会開催（二月）  
JUDO-I MPACT刊行（三月）  
二〇二〇年度幹事会（八月）

# コロナに負けるな！ 在校生への応援メッセージ

## コロナ元年を過ごす

同窓会会長 平岩一郎



在校生の皆さん、様々な活動が制約を

受け不安な中で工夫・努力をして  
受けるに専念していると思います。  
今年度は、武漢発祥の新型コロナ  
ウイルス感染症が蔓延し、入学  
式や校内柔道大会などが中止され  
ました。毎年、皆さんの若さに触  
れ元気をもらっていましたが、今

今年度は、武漢発祥の新型コロナ  
ウイルス感染症が蔓延し、入学  
式や校内柔道大会などが中止され  
ました。毎年、皆さんの若さに触  
れ元気をもらっていましたが、今

年度はそれも叶わずとても残念で  
す。新型コロナウイルス感染症は  
世界的にはまだ猛威を振るっており  
ます。日本もこれから春に向か  
ってまだ予断を許さない状況にあ  
ります。したがって、これからも  
気を緩めず変わらぬ感染予防対策  
が求められます。  
今は、コロナ禍に過ごす新しい  
生活様式が少しずつ定着しつつあ  
ります。  
私たちは、偏った情報や噂に惑  
わされない様注意しながらコロナ  
に因る様々な事柄に、対応してい  
かなければなりません。  
米田柔整で医療知識や臨床経験

が豊富な先生方から学んだこと  
は、患者さんの怪我に対し真摯に  
向き合い、患者さんの事を第一に  
考えて共に立ち向かえる礎にき  
つとなります。

『佛手仏心』これは初代校長、  
米田一平先生の言葉で「仏のよう  
な手、仏のような心で患者さんに  
接する」が出来るのはあなた自  
身なのです。

世の中が落ち着き、皆さんにま  
た会える日を楽しみにしておりま  
す。



## 共に戦つ、仲間たちへ

同窓会副会長 森川伸治



COVID-19  
の感染が拡がり  
始め、約1年が

経過しました。この1年間、私  
たち人間の生活は、小さなRNAウ  
イルスによって大きく変化しまし  
た。何が正しい行動なのか模索し  
ながらも、皆、前を向こうと必死  
に努力してきたと思います。

約1年が経った今、世界中のプ  
レインを集結させてもなお、どう  
立ち向かえば彼らに打ち勝つこと  
ができるのか、わからないまま  
です。しかし、その中でわかっ  
たことがあります。彼らは極めて  
適応能力が高いということです。  
SARS-CoV-2の遺伝子変異  
情報を掲載している「GISAID」  
のサイトは、驚くべき変異の  
速さを証明しています。逆に、私  
たち人間も、ウイルスの変異や社  
会生活の変化に適應できる能力を  
持つことが、戦いに打ち勝つ唯一  
の方法なのかもしれません。

with コロナと言われていま  
すが、どうしてコロナと仲良く共  
存できるのでしょうか。これは、  
人間VSウイルスの戦いであり、  
人間同士の戦いではありません。  
それにも関わらず私たちは今、人  
間同士で犯人を探し合い、その誰  
かを攻撃し、自らを苦しめ合っ  
ています。これは、とても正しい方  
法とは言えません。米田柔整在校  
生の皆さん、どうか私たち人間が  
勝利を掴むために、皆で共に戦  
抜く方法を考えていきたいと思っ  
ています。皆それぞれ、色々な苦  
労があることと思いますが、未来  
の医療の一翼を担うであろう皆さ  
んと、共に戦つ仲間として、この  
荒波を乗り越えられたらと思いま  
す。  
まずは皆さんの健康が第一で  
す。コロナ禍において、心と身体  
の健康を保つためには、悩みを誰  
かに相談したり、運動したりする  
ことが効果的です。  
いつかまた、穏やかに生活でき  
る日が来ることを信じて、皆さん  
の命と将来のことを一番に考えた  
い、そう思っています。



変化する柔道整復師の

仕事を考える

同窓会副会長 井上雅博



新型コロナウイルスが突然発生し日常生活・仕事・

学校生活等制約を受け、感染の恐怖及び経済悪化による不安を感じています。

しかしながら企業・商店等は、コロナ禍の中で消費者に安心安全を与えると共に経済も現在の状態に合わせて著しく変化しています。以前より我々の業界は多くの変化をして来ていましたが、このコロナ禍による変化の加速に対して我々ももっと努力し社会の変化に対応出来るように知恵を絞らな

いといけません。

学生の皆様もコロナ禍の中不安な日々を過ごされていると思いますが、今この時に柔道整復師を目指すうえで柔道整復師としてのどのような仕事をしたのか目標を見つけて下さい。

幸い柔道整復師としての知識を活かして活躍の場は広がっております。病院診療所・接骨院・スポーツトレーナー・介護関係の仕事等活躍の場は違いますが、その職場の中で自分は何ができるのだろうか、何がしたいのか考えて明日に向かって沢山勉強して下さい。この学校には、レベルの高い授業・生徒の皆さんの相談に乗ってくれる先生がいます。社会が変化する今だからこそ将来力を発揮出来るように考えて下さい。

（私が思う我々の仕事のこれから）  
我々の仕事は、主に運動器の外傷・障害に対して施術し回復に導く仕事です。

学生から一般社会人高齢者に至るまでスポーツの普及によるスポーツ障害・外傷の増加。パソコン・スマートフォン・テ

レビゲーム等による姿勢の悪化・筋力低下による障害。

高齢者の増加の為加齢による筋力低下・四肢の関節及び脊柱の障害の増加。

このように力を発揮する対象者は増えています。皆様が将来柔道整復師として、どの様に携わるかを考え勉強してもらえると幸いです。

コロナ禍で

頑張っている皆さんへ

柔道委員会委員長 田中俊彦



本年一月に日本で最初のコロナ患者が確認されて以来、夏頃には終息するのではと思われた新型コロナウイルスも、第一波、第二波の襲撃を受け更に第三波の大波の中にあります。学校の休校や各種イベント、スポーツ大会の中止が相次ぎ、私

が関係する柔道も例外ではありませんでした。練習すらできず地方大会から全国大会更には、国際大会まで中止の事態が続きました。

令和二年末には、無観客試合ではありましたが、一部の大会が開催され嬉しく思いました。柔道整復師を目指す皆さん達は、誰も経験していない試練の中にいます。特に三年生の皆さんは、国家試験を控えており最後の頑張りを見せなければなりません。三年間学んできた経験と努力は、裏切らないと信じて目標に向かって行って下さい。一・二年生の皆さんも米田柔整で学びながら知識を蓄え力にして将来に向かって行って下さい。私も、米田柔整卒業生の一人として、柔道整復師として生涯学び続けていくことをここに誓いたいと思います。

在校生頑張れ

企画委員会委員長 近藤寿幸



私が中部柔整専門学校（現・米田門学院）に

入学したのは四十年近く前になります。実父が小さな柔道教室を開いていたこともあり接骨院を開業したいと思い入学致しました。当

時の学校は現在の米田病院の玄関北側あたりにあり、鉄製の非常階段のような階段を使って教室へ入っていたのを覚えています。それから幾度も法改正やカリキュラムの変更、学校の新築移転等があり現在の米田柔整専門学校になりました。器である校舎が新しく立派な物になったのと同じく、私が学生時代に学んだ学習内容と四十年分医学が進歩した現在の学習内容では大きな隔たりがあります。治療技術の進歩は勿論ですが、MRIや3D-CT、エコー等を用いた診断技術等については私の学生時代にはあまり話題にならない物でした。また昨年度より接骨院での臨床実習も義務化され、そして更に今年に入り発生した新型コロナウイルスによるいわゆるコロナ禍により学生生活も大きく変化したと思います。授業方法も変わりYouTube配信やZOOMを用いたオンライン授業が為されたと聞いています。この授業方法の変更に対応された学校運営サイドの御尽力には卒業生の一人として本当に頭が下がる思いです。私が過ご

した体育会系でアナログの学生時代ではとても考えられない方法です。まだまだ先が見えないコロナ禍の現状では生活様式を新しくするように求められ、巷ではNew Normalとも言われています。特に学生時代に接骨院での臨床実習の経験をし、コロナ禍で学生生活を過ごされた皆様はこの新しい生活様式に対応した方法と知識を有した新たな柔道整復師の一期生になると思います。これからの時代に即した柔道整復師像は皆さん一人一人が作っていく、新たな歴史が作られていくのだろうと感じています。



**それに殉ずる**

広報委員会委員長 野々部高史



日頃の同窓会活動にご賛

同、ご協力いただき切に感謝申し上げます。

私は広報部に携わり32年目の古タヌキでございます。同時に非常勤講師を毎木曜日の午前に学生の皆様と共に勉学し、現在、実習指定接骨院で実習生の方々と切磋琢磨しております。これらのことから在校生を含み母校に対し親近感、近距離感の熱量が大きいと感じております。

2020年1月より世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症確認から約1年、我々業務は無論、米田柔整、学生諸君、路頭に迷ったことでしょうか。私も頭が真っ白でした。この度は、在校生の皆様コロナ禍での将来への不安、孤独感、焦燥感などネガティブなマインドにエールを送る意味で一読いただければ幸甚であります。

単刀直入にコロナ禍でなくても現在の柔整界は決してポジティブとは言えないのが本音であります。骨折、脱臼の新鮮例は少なく、患者数が右肩下がりであることは周知のことです。が、我々には筋

を中心とする軟部組織の外傷を扱える業務があり、また最近では骨格筋から分泌されるマイオカインの研究が進んでいます。マイオカインは自分の力で体の中に作ることが出来る安上りで手っ取り早い増やし方があります。我々の業務範囲に後療、運動療法、指導管理という合法内の実務があります。運動器の修復、改善、強化の中に何かヒントがあるのではないのでしょうか？

まだまだ町のほねつぎ、接骨院は捨てたものでなく、世代を通じて頼れる「自助」のバイプレーヤー、助けびと、社会貢献の一助となる存在であり続けると考えております。先達・先人らが築き上げてきた信用・信頼を後世にバトンを渡す意味でも、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、軟部組織損傷からのゴール、強化の専門家の一員となる為に共に頑張りましょう。

また、AIという強敵もすぐそこにいることも念頭に置き、患者様のゲートキーパーになる為に

は、今は人間性信頼度をみがき、まずは現場に出てトライアルアンドエラーだー！  
そして良き兄貴、姉さん、親父、おばさん、爺婆になるまで歩み続けよう。

**新型コロナウイルス猛威を振るつ**

新型コロナウイルス感染症が全国的に猛威を振るっています。もちろん我が校も例外ではありません。卒業生の皆様方もいろいろご心配のことと思います。そこで広報委員から事務局にお尋ねした内容をQ&A形式で掲載いたします。

**Q：コロナ対応のため中止となった学校行事はありますか？**

**A：2019年度卒業式、2020年度入学式、校内柔道大会など中止になっています。また今年度の全国柔整大会はオリンピックのため北海道で開催予定でしたが、中止となりました。**

**Q：コロナのため休校などはあったのですか？**

**A：緊急事態宣言などコロナ対応のため4月および5月は、1年生**

の授業自体は中止となりました。2・3年生はレポートを提出する自宅学習としました。

6月1日よりマスク着用や消毒、換気、シールドの設置などの予防策をとった上で対面授業が開始となりました。学生同士の席を離し、人数の多いクラスは講堂で授業を行い、ソーシャルディスタンスを確保した上で再開されています。

**Q：オンライン授業や遠隔授業などはあったのですか？**

**A：感染者数の増加や愛知県緊急事態宣言等のため8月24日より9月27日までの約1ヶ月間学校での授業は行わず、オンラインでの授業となりました。一部の外部の講師によりZOOMを用いた授業を行いました。常勤の先生方の授業は基本的にYouTubeにて配信する形で行いました。再生スピードを上げたり、巻き戻しなど時間内は学生個々のペースで視聴できるようになっていました。またwifi環境など確保できない学生さんには学校からポケットwifiを貸し出して対応しました。**

**Q：柔道の授業はどのように行っ**

ていますか？

A：現在は感染防止のため柔道の授業は礼法および受身の練習のみ行っています。特練の活動も全柔連のガイドラインよりも厳しい内容で感染予防に最大限留意しながら行っています。

Q：病院等での臨床実習はどのように行っていますか？

A：昨年度より臨床実習時間が大幅に引き上げられ、協力接骨院のもとで実習を行ってきましたが、感染予防のため一部オンラインや校内で実習を行い、実際に病院や接骨院にて行う臨床実習は中止となっています。

Q：認定実技審査はどのように実施されますか？

A：従来はモデルおよび助手を用いて実技審査が行われていましたが、今年度は口述にて行うこととなりました。学生さんと審査員との間にはソーシャルディスタンスを確保した上で、換気を十分に行いながら行います。骨格模型を使用して骨折部位や脱臼骨頭の位置などを説明します。また固定の審査は金属副子を受審者自身の患部

にあてて説明を行い、これを評価します。

柔道審査では服装、態度、受け身、礼法の実技を行い、その後「柔道について」、「投の形について」、「柔道の投技について」口述審査を行います。

Q：コロナによる学生の生活面への影響はありますか？

A：一部学生さんからアルバイトができない。親の収入が減少したなどの理由で生活苦の訴えがあります。学校としても適宜相談など対応を行っています。

米田 實先生 著書刊行



2020年3月18日、特定医療法人米田病院 院長米田實先生

が執筆された「JUDO! IMPACT」が株式会社幻冬舎より発刊されました。2018年に東海大学体育学部教授宮崎誠司先生と「柔道とは、柔(やさ)しい道である」を共同

執筆されていますが、前作とは違った切り口から奥深い柔道の魅力を伝えて下さっています。

国家試験改革

3月1日(日)国家試験が行われました。2019年度より国家試験の内容が一部変更となりました。今まで必修問題は生理学、解剖学、運動学、整形外科等の学科(合わせて17問)と、柔道整復学(13問)の合計30問でしたが、今回から必修問題の出題範囲が柔道整復術の基礎、保険診療に関する知識、関係法規に関する知識に変更になり、問題数が50問に増えました(午前・午後で合わせて250問)。柔道整復術の基礎とは十一月頃に行われる認定実技審査の出題範囲となっていますが、それにプラスして柔道についての問題も出題されるようになっていきます。我が校の結果は新卒生の合格率が96・1%でした。全国の新卒の合格率は84・8%(昨年度全国平均86・1%)ですので10%以上合格率が高いという結果でした。

米田柔整専門学校柔道報告会開催

米田柔整専門学校柔道報告会が二月十五日十七時三十分からキャンパスプラザにて開催されました。



米田忠正理事長のご挨拶から始まり、全国大会準優勝の女子柔道部員より挨拶、続いて一部残留を決めた男子柔道部員より挨拶と続き、アジア大会、全日本形競技会優勝の石田姉妹の挨拶がありました。最後に米田實学長から締めのご挨拶があり、報告会は盛会のうちに終わりました。

卒業生リレーコラム快走中

今年度は五十期生(昼)の春日井一義選手から三十六期(昼)金城考宏選手、同じく山守貴英選手、同じく富田重光選手、三十九期(昼)岡田新平選手とタスキをつなぎました。どれも力を入れたコラムとなっています。ぜひ米田柔整同窓会のブログをご覧ください。

二〇二〇年度定期総会について

八月三日定期総会が書面議決によって開催されました。二〇一九年度事業報告・決算報告、会計監査報告、二〇二〇年度事業計画案・予算案、役員変更案の審議を行い、賛成多数で原案通り可決されました。また、現在の状況を踏まえ新型コロナウイルス感染症の影響により、今後生活が困窮する現役学生が出た場合、同窓会からも何らかの支援が行えるよう、具体的な支援方法を今後学校と協議して行くことが議決されました。